

(様式)

## 平成28年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・昨年度に引き続き、「くらしを支える水」や「ごみの処理と利用」「わたしたちの生活と環境」など児童にとって身近な暮らしの様子や問題への正答率が高い。自分たちの生活と社会科の学習が結びつきやすく、体験や経験を通して答えを導くことができている。
- ・社会的事象についての知識・理解について、どの学年においても目標値を上回っている。ICTによる視覚的な学習や体験的な学習を行ってきたことで、社会科における基礎的な知識の定着が徐々に見られる。
- ・記述問題では、問われていることに対して、知識を基に記述する表現力が高まってきている。

#### (2) 課題

- ・昨年度と比べて、一つの資料から正確に情報を読み取ることを苦手としていて、表やグラフの変化からどのようなことが分かり、それらが意味していることを考える力は不十分である。
- ・日本地図や世界地図、絵地図など地図全般に見慣れておらず、地図の見方については課題が残る。また、方位磁針や地図記号を活用する場面では、基礎知識は身に付いているが、応用して問題に取り組むことは難しい。
- ・社会的事象への関心・意欲・態度において、学年が上がるごとに低下傾向が見られる。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率の変化（経年比較）

	平成28年度結果	平成27年度結果	平成26年度結果
第4学年	達成率±0		
第5学年	達成率-19.0	達成率±0（第4学年時）	
第6学年	達成率+6.0	達成率-17.5（第5学年時）	達成率±0（第4学年時）

#### (2) 分析（観点別）

##### 4・5・6学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
区の平均と同程度か、やや低い正答率である。 <u>社会科の学習内容と身の回りの生活とを結び付けようとしている。</u> 社会的事象への興味や関心を十分にもてずにいる児童も少	区の平均と同程度の正答率である。 地図帳や絵地図を含む地図一般から情報を正確に読み取り、地域の様子についてとらえたり、 <u>読み取った内容を表現したり</u> する力は不十分である。	区の平均と同程度の正答率である。 グラフや表、地図の読み取りや、複数の資料を比較した際の変化の様子を考える力が不十分である。 グラフのもつ意味や地図等の正しい見方を普段から体験を	区の平均と同程度か、やや低い正答率である。 地図記号や日本の工業地帯の名前、 <u>世界の主な国名など</u> 、知識の理解で不十分なところがみられた。 <u>中学年以上のクラスには、日本地図や世</u>

なくなく、繰り返し指導していく必要がある。		通して学習していく必要がある。	<u>界地図を掲示し、地図が児童にとって身近な存在となる環境を整備する。</u>
-----------------------	--	-----------------	--

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
学校の回りや大田区など、身近な地域の様子についての関心は高い。自分たちにとって身近な地域を基にして、他の地域との比較をさせることで、徐々に広い地域に目を向けられるようにする。	様々な種類の資料を与え、資料のもつ特徴を考えながら、 <u>必要な情報を収集したり、選択したりする学習経験を積ませ</u> ていく。地図や写真などの資料から情報を読み取る活動を多く取り入れ、普段から資料に慣れさせる。	グラフや <u>図表などのもつ意味を正確に読み取れるように</u> するため、算数の学習（棒グラフ・折れ線グラフなど）と関連づけて理解させる。 <u>絵地図の読み取りでは、学校を中心に絵地図を作成する際に、方位を意識させたり、方位磁針を実際に活用したりする機会を取り入れていく。</u>	地図記号や方位、地域の名称を確実に理解するために、繰り返しの学習をすすめる。 <u>同時に、立地状況や利用状況などの社会的事象を押さえさせる。</u> そのために、社会科見学や地域めぐり、身近なスーパーや工場の見学など、体験的な活動や身近な環境から理解を深められるようにする。

#### (2) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
日本の産業（農業・水産業・工業）について、児童自身の身近な生活と結び付けて考えることができるように、資料に加えて写真・ビデオ・動画等、教材を工夫して <u>視覚的にとらえさせる</u> ことで、児童の興味・関心を高めていく。	<u>知識として得た社会科用語を使って、学習して分かったことを文章で表現したり、説明したりする活動を多く取り入れていく。</u> そして、自分にできることを考えさせ、自分も社会の一員であるという自覚をもつきっかけとしていく。	資料に慣れるためにも、資料を読み取る活動を取り入れるとともに、文章からグラフを実際に書く活動から、資料の良さや必要性を実感させる。	<u>学習により得た知識を確実に定着させるために、授業の最後に児童が文章でまとめたり、単元の最後に文章でまとめた活動を取り入れる。</u> 文章の暗記ではなく、用語やキーワードを使ってまとめられるように、 <u>基礎的知識を応用できるようにする。</u>